

紀伊民報

診察室の午後

白浜はまゆう病院
泌尿器科部長 川嶋 秀紀

ずいぶん以前、まだ子どもたちが小さかったころ、私たちは大阪の大病院からほど近い所にマンションを借りて住んでいた。20家族ほどが入居しており、みな仲良く暮らしていた。

ある朝、同じマンションの住人の若いお父さんが、幼稚園児の息子さんを連れてわが家に駆け込んできた。息子さんは包茎で、このままでは将来彼女もできないと心配したお父さんは、前の夜、意を決して息子さんの包皮（おちんちんの皮）をむいたそうだ。

しかし、包皮の先のおしっこ出口の所は、とても

狭く小さな穴になっているのが普通であり、そのため亀頭（おちんちんの先の部分）は完全に包皮に覆われている。それを無理にむいてしまわず、入浴後きれいな手で、少しずつむくようにして包皮の出口の穴を大きくしていく（何日もかけて少しずつ）、むけるようになって翻転（ほんてん）したら必ず元に戻す」ように注意した。

<12> エリマキトカゲ

男の子は出生時には皆、包茎である。だんだん包皮の先の穴が緩くなって、包皮が無理なくむけて翻転し、亀頭が露出するようになる。なれば良いのである。なかなか緩くなってこなかったり、おちんちんの先が赤くなって膿（うみ）が出る亀頭包皮炎を繰り返したりする場合は、ぜひお医者さんに相談してほしい。医師への相談も小さいうちは抵抗が少ないだろう。

宗教や慣習に従い、赤ちゃんのときに包茎の手術を行う人たちがいる。古い時代に衛生上の理由からこのようなことが行われ、現在に受け継がれているのである。しかし、包皮がゆるゆるで亀頭が無理なく出てきて、局部が清潔であれば医学的には問題はない。美容上の理由で余剰の包皮を切除する手術を受けるかどうかは、青年期以降、本人が決めればよいのではないだろうか。